

学校教育目標		志を持ち、自ら考え行動できる児童生徒の育成		重点目標	自分の思いや考えを根拠をもとに伝える子供の育成				
評価計画				自己評価			学校関係者評価	改善計画	
重点目標	目標達成のための方策 (取組指標)	成果指標	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策		
重点目標に 関する 子供の 育成 評価	聴いて考え、表現する子供の育成 確かな学力 (かしこく)	○拡大基礎タイムを4～6年に位置づけた習熟度別学習、及びTTによる低学年へのきめ細やかな指導の実施	・国語科の単元テスト 平均80以上 ・算数科の単元テスト 平均80以上	4 3	○加配教師の活用で、低学年の基礎・基本の定着が図られている。 ○国語科の帯の時間の取組で、言語及び、読解の向上が見られた。 △自分の考えを伝え合うことはできて、相互の考えの吟味や練り上げにまでは至っていない。 ○低学年でも、具体物などを操作しながら考えを伝えることができてきた。	A A	・学校の自己評価は適切である。 ・理解度に応じて分けたグループ学習は、大変効果的だと思う。	・児童の語彙を増やす内容を重点的に取り組ませる。 ・タブレットを活用させ、習熟度に応じた自主学習に取り組ませる。 ・主題研究を中心に、交流活動での観点を示し、考えの統合や序列化をする場を設定する。 ・標準学力調査やプレテストの結果で児童の習熟度を個別に把握し、5、6グループに細分化した習熟度別の学習を行う。	
		○自分の思いや考えを根拠をもとに伝える子供の育成 ・「場のしかけ」「発問のしかけ」による「話す・聴く」活動を学習過程に位置付けることによって授業改善を図る。	・友達や先生の話や意見を聞いて、自分の考えを捉え直すことができる。 教育活動評価4段階評定尺度3以上 ・絵や図、文章などを使ってまとめた自分の考えを他者に伝えることができる。 教育活動評価4段階評定尺度3以上	2 3	○道徳ノートを通じて自分の行動の価値を見つめ直すことができた。 △道徳的価値を自分事として考えさせるための、資料の取扱いや発問を工夫する必要がある。	A A	・学校の自己評価は適切である。 ・自分や友達、学級の頑張りを評価できる豊かな心の子供が育っているように見受けられる。 ・自分がされて嫌なことを他人にしないということを、もっと自分に置き換えて考えられるようになって欲しい。 ・家庭での接し方にも要因があると思う。学校と家庭が連携して、児童一人ひとりを認め合える環境ができるとよい。 ・先生方が子供たちの発言に耳を傾けていて、学級の雰囲気がいや意見が認められる経験から、他者との信頼関係が生まれていくものだと思う。	・全校朝会や各行事等で児童の良さや頑張りを賞賛し、よりよい行動を意識させ、行動意欲を向上させる。 ・道徳科の学習において、低学年では特に、中心人物の心情に共感させ、自分事として捉えさせることを狙いとした授業の充実を図る。 ・異学年交流の場を増やし、一人一役などで、高学年として下学年の世話や行事の進行などを多く経験させる。 ・学習の振り返りの観点として、友達との交流活動に関するものを提示し、他者との関わりを常に意識させる。 ・各種委員会活動で、よい行動をした児童や頑張りを賞賛できる児童を紹介する場を設定する。	
	豊かな心 (やさしく)	○道徳教育、特別活動、人権・同和教育の充実 ・振り返りの場面での交流活動の設定 ・道徳ノートの活用 ・学級目標を目指した学級会の自主的運営 ・いいところ見つけの実施・定着 ・地域・校区の「ひと」「もの」「こと」との交流活動の充実	・自分のがんばったところを分かる(低)学習の中で自分の良さに気づく(中・高)ことができる。 教育活動評価4段階評定尺度3以上 ・道徳の学習で、様々な登場人物の立場で道徳的価値を考える(低)登場人物に自分を置き換えて道徳的価値を考える(中)道徳的価値を支える様々な根拠を考える(高)ことができる。 教育活動評価4段階評定尺度3以上 ・学級の一人として、自分の役割を果たす(低)集団の一人として、責任を果たす(中)集団の一人として自ら活動する(高)ことができる。 教育活動評価4段階評定尺度3以上 ・友だちのいいところを見つける(低)友だちや学習のいいところを認める(中)友達や学級の良さ認める(高)ことができる。 教育活動評価4段階評定尺度3以上	3 2 4	○帰りの会やメルシーアーチの取組で、友だちのいいところを見つけることが習慣化してきた。	A A A	・学校の自己評価は適切である。 ・成果だけでなく、取組の内容も評価対象にしてはどうか。 ・学校行事の際には、気持ちのよい挨拶をたくさん貰っている。 ・学年輪番のあいさつ運動は大変効果的な取組だ。クラスメイトが声をかけ合って門に立っているのを聞いています。	・学年輪番のあいさつ運動を通年で行う。 ・全職員の参加による清掃指導を行い、黙々掃除の徹底を図る。 ・スリッパ並べにおける善行児童や名札着用児童への表彰を行い、内発的動機による意識化を図る。	
			○基本的生活習慣の定着 ・「挨拶・黙々掃除・名札着用・靴揃え」の取組	・進んで挨拶、返事することができる。 教育活動評価4段階評定尺度3以上 ・毎日きちんと名札を着用することができる。 教育活動評価4段階評定尺度3.5以上 ・黙って最後まで掃除をすることができる。 教育活動評価4段階評定尺度3以上 ・トイレのスリッパや靴のかかとをそろえて並べることができる。 教育活動評価4段階評定尺度3以上	3 2 2	○児童会だけでなく、学年の輪番によるあいさつ運動に参加する児童が増えてきた。 △名札の不着用児童への指導だけでは不十分。 △委員会によるチェックと給食時の啓発放送だけでは、黙って掃除やスリッパ並べを全児童が意識するまでにいたっていない。	A A A	・学校の自己評価は適切である。 ・気候変動で厳しい環境の中、よく管理されているように見受けられる。 ・給食指導が行き届いていると感じた。	・運動場や遊具の整備を進め、児童の外遊びや運動への意欲を高める。 ・給食委員会と連携し、時間内完食の達成感を感じさせる取組を実施する。
			健康、体力づくりの充実 ・おおむたっ子ストレッチ、サーキット運動、元気っ子タイム、外遊びの推進 ・給食後の歯磨きタイムの設定	・体力を向上させるために、自ら外遊びや運動ができる。 教育活動評価4段階評定尺度3.5以上 ・給食を時間内に食べ終わり、食後に進んで歯磨きができる。 教育活動評価4段階評定尺度3.5以上	3 2	△学級遊びには参加するが、自発的に外遊びをしていない児童への手立てが不十分。 △時間内に食べ終わらない児童が固定化しており、完食に対する意欲が低下してきた。	A B	・学校の自己評価は適切である。 ・こまめなチェックシートやアンケートで早期対応ができています。 ・学校の自己評価は適切である。 ・登校するだけが目標になると、子供の思いや困り感とのずれが生じてしまう。	・チェックシートだけでなく、研修を通して、日常の見取りに対する職員理解を深めていく。 ・「学級活動(1)」を重点領域として位置づけ、よりよい人間関係の醸成を行う。
				○特別支援教育の充実(対応の共有) ・毎月の児童理解についての会議実施と共通理解、組織的対応	・毎月1回の生徒指導・特別支援教育に関する児童理解会議の実施 100%	4	○計画的な会議の実施により、児童の特性に合わせた、合理的配慮への理解が深まった。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・分教室の担任や特別支援教育コーディネーターとの研修会を実施し、特性を持つ児童への対応への理解を深める。
	働き方 意識改革と 業務改善	○毎週の定時退校日の設定と学校閉庁時刻(20時)までの退校 ○学年会を中心とした、計画的・組織的な業務の遂行	・超過勤務時間 平均45時間以下	4	○データの共有による事務作業の効率化も進み、学校閉庁時刻までの退校者が増え、平均45時間以下を達成した。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・働き方改革に向けての様々な対策と、超過勤務時間削減に向けての引き続きの取組に期待する。	・会議や研修を精選し、水曜4校時下校によってできた時間を有効活用する。	

自己評価 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
 学校関係者評価 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである D：自己評価は不適切である